



環境を考え行動する会  
神奈川県川崎市 天野 悦子 さん

**Q** 差し支えなければ、年齢と出身地を教えてください。

**A** 67歳。足立区下町の町工場で育ちました。荒川の土手下で、「金八先生」の撮影校・千寿桜堤中学校のすぐ近くです。

**Q** ごみ問題に関心をもつようになったのは何故ですか？

**A** 「おしん」を絵にかいたような祖母をお風呂に入れるのが、学生時代から結婚するまでの私の役目でした。一緒に湯船に浸かりながら、先輩女工さんからお針やカタカナ交じりのひらがなを教わった苦労話を繰り返し聞きました。

頭を洗って流してあげる時、「3杯で充分」、4杯目をかけようとする時「もったいない」と言います。ご飯粒はもちろん、煮汁も小皿に残った醤油1滴も捨てたことはありません。「物は3回使える。使い切る」という祖母は、工場の職人が使う穴の開いた軍手も丁寧に繕っていました。

そして私も、ポリ袋1枚を野菜の保存袋に使い、ごみ用や犬のウンチ用にした後でないと捨てられません。タオルが台ふきになり雑巾になり、最後に穴が空いて、サッシの敷居や玄関のたたきを拭いて真っ黒になってやっとやっと捨てられます。捨てるために、今しなくてもいい掃除をするという、困った問題なのですが。(笑)

2007年8月「環境を考え行動する会」が生まれました。井戸端会議でもいいから情報を交換して「知る」ことから始めようという会ですが、いつでも最後はごみの話。私以上に「無駄にごみを出したくない、燃やしたくない」と実践しているメンバーばかりだったのです。

そして発足1年後に循環生活研究所方式のダンボールコンポストに出会い、生ごみ堆肥化の普及活動に邁進することになりました。

生ごみを捨てなければ それを入れるポリ袋が減って、生活スタイルの見直しに通じ、環境に目を向ける人が増えるかと信じて活動しています。

**Q** ごみかんに入会して下さったきっかけは？

**A** 「生ごみは宝だ！リサイクル交流会」でごみかんメンバーと出会い、ごみとSUNへの寄稿を頼まれたのが出会いです。

その後、2回「生ごみリサイクル交流集会 in 多摩」での活動紹介などに登壇させていただきました。

**Q** ごみ問題に関ること以外に趣味や生きがいは何ですか？

**A** 4人の子育てと仕事で精一杯の日々で、週1日だけ地域に関わる日として生活クラブの25人班運営をしてきました。仕事は父の介護を理由に2007年退職し、「環境を考え行動する会」を立ち上げて地域活動一色になりました。

忙しさにかまけて特に趣味はないのですが、しいていうなら家族みんなでスキーに行くことです。若い頃は子供をおぶって滑り、去年は孫も

母も一緒に津南に13人旅。98歳の母は自分からランタンに「100歳になるまでがんばります」と書いて夜空に飛ばしました。

でも100歳の壁は厚い！年始に体調が急降下。暮れの29日までデイサービスに通っていたのに、今ではベットから起きられず、夜中の譫妄に私は添い寝の毎日で、今年の白馬16人スキー旅はキャンセルとなりました。(写真は今年のお正月)



**Q** 特筆すべき近況があれば教えてください。

**A** ローカルフードサイクリング(株)によれば、おしゃれなバック型のLFCコンポストは販売から1年で1万個以上売り上げ、参加人数12,035人、生ごみ削減量224,748kg、CO2削減量78,886kg。これは10万世帯が13.5時間エアコンを使わなかった量に匹敵するそうです。

SDGsもやっと認知され、生ごみリサイクルはこれからです。今ならSNSを駆使して若い層にも都会人にも広めて行けそうです。

しかし、「2022年8月で環境を考え行動する会を閉じる」と、昨年6月に発表しました。世代交代ができなかった反省は大きく、無念さも残りますが、責任ある終わり方をするための1歩を踏み出しました。

だれもがふつうに生ごみの栄養を土に還し、簡単に継続していけるような体制を、今懸命に模索中です。